

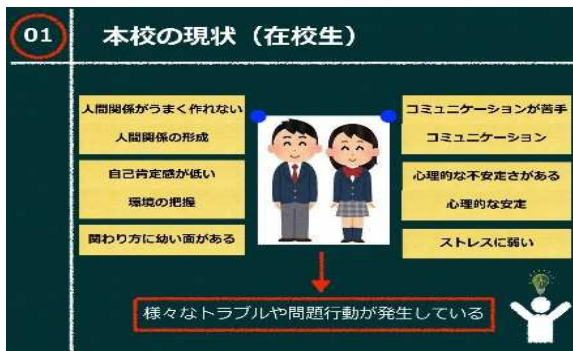
# 高等支援学校におけるキャリアを繋げる授業「自立活動」の導入 ～卒業後の社会自立と職業自立に繋がる授業実践～

熊本県立ひのくに高等支援学校

## 1 背景

本校生徒の特性として、「人間関係の形成」や「コミュニケーション」に苦手さがあったり、「心理的な安定」が保たれないなどが挙げられ、生徒同士のトラブルや問題行動につながる場合もある。また、卒業後も様々な不安や問題を抱えており、離職するものもいる。

このような状況は、生徒の自己肯定感の低下、自己理解の曖昧さ、自信不足などに密接に関係するものである。生徒の社会自立・職業自立へ向けて、自己コントロール力やコミュニケーション力の向上は大きな課題である。



## 2 目的

特別支援学校の教育の柱である「自立活動」を授業として位置づけることで、指導効果も高くなり、生徒が抱える困難さの改善克服を図られるものと考えられる。

また、軽度知的障がい特別支援学校における「自立活動」の実践は全国的にも少なく、さらに平成30年度より開始される「高等学校における通級による指導」を見据えると、本校の自立活動の実践研究は各学校のモデルとして参考になるものと考えられる。

## 3 今年度の実践

### (1) 自立活動検討小委員会

「自立活動」を推進するために、教育課程検討委員会の下部組織として、自立活動検討小委員会（図1）を組織した。メンバーは6

名で構成し、授業内容の検討や提案、授業の課題・反省、職員への共通理解などを行う。

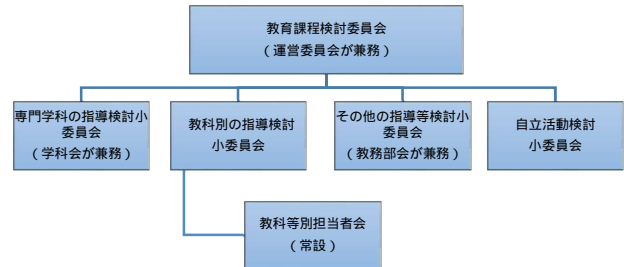


図1 教育課程検討委員会の構造図

### (2) アセスメント

「自立活動」の出発点はアセスメントである。そのため、自立活動アセスメントシート、自立活動チェックリスト（図2）の2つのツールを作成した。特に に関しては、生徒自身が自分の実態や苦手さをチェックしていくものとなっている。

自立活動チェックリスト

年 組・科 名前 ( )

1: できる 2: 少しできる 3: 少し難しい 4: とても難しい 5: わからない 6: あてはまらない

項目	1	2	3	4	5	6	苦手なことや課題の具体例、解決方法があれば記入
<b>健康（健康の保持）</b>							
1 起床や就寝などの生活のリズム、食事や整理整頓などの生活習慣、衣服の洗濯や清潔など、健康に気をつけることはできていますか？	1	2	3	4	5	6	
2 病気がある人は、自分の症状を理解し、薬を飲んだり、無理をしないように気をつけたりして生活することができていますか？	1	2	3	4	5	6	
3 病気や事故で、身体が動かしにくかったり、身体の調子が悪かったりする人は、そのことに気をつけて生活することができていますか？	1	2	3	4	5	6	
4 運動不足にならないよう運動したり、適切な食事をしたり、自分で健康管理をしていますか？	1	2	3	4	5	6	
<b>気持ちや感情、行動のコントロール（心理的な安定）</b>							
1 毎日、イライラしたり、落ち込んだり、不安になったり、緊張したりすることはなく、落ち着いて生活ができていますか？	1	2	3	4	5	6	
2 場所や場面など、状況や予定が変わったときに、どうしたらよいかわからなくなったり、緊張したり、不安になったりしないで、落ち着いて対応ができていますか？	1	2	3	4	5	6	
3 苦手なことがあっても、それを乗り越えるために、積極的に取り組もうとしていますか？	1	2	3	4	5	6	

図2 自立活動チェックリスト（抜粋）

### (3) 授業実践（1学年対象）

6月：「自己理解」

チェックリストの記入から苦手なことの解決法を考え、サポートブックを作成した。また、提案授業を行い、その後、校内授業研究会で討議を行った。

## 10月：「ストレスマネジメント」

ストレスの概念や対処法について学習し、リラクゼーション法を体験した。2時間目には、助言者として熊本大学の菊池先生に来ていただき、研究授業、授業研究会を行った。

## 4 公開授業

12月12日(火)に県立学校及び菊池管内の義務制の教職員を対象とした公開授業を行った。当日は約60名の参加者があり、「コミュニケーション」の授業公開から、研究概要等の説明、特別支援教育課 吉田審議員の講話まで、充実したものとなった。

公開授業では、現場実習で困ったこと(受容、表出)を場面設定し、グループワークや発表を行い、コミュニケーションの重要性を考えた。

参加者からは概ね高評価を得ることができた。



## 5 アンケート結果

・自分の苦手なものに対しても、友達の姿から学べるものを吸収していこうとする姿が素晴らしいですね。

・生徒がそれぞれの自立課題を自分でも把握してコミュニケーションの学習に取り組んでい

る姿に前向きな学習意欲を感じました。

・きめ細やかな実態把握に基づいた生徒にとってわかりやすく具体的な事例を題材にした授業は大変参考になりました。

・高等学校においてコミュニケーションについて必要性を感じるが、教科の指導カリキュラムがあるため、なかなかこの部分に関して学習するという観点がもてないと感じた。

・高校の現場では特別支援教育の理解が進んでいるとは言えません。今回のように研修の場に参加することが高校における特別支援教育の充実に繋がると感じました。

・本校では「自立活動」を教育活動全体で取り扱っている。今日の提案を見聞きし、もう一度「自立活動」の位置づけをきちんと考えてみる必要があると思った。

・集団での自立活動の指導は大変参考になりました。

・自立活動の時間にどう取り組むかボトムアップの目標設定、集団と個別化、アセスメントに基づいた学習内容とグループ編成など早速学校に持ち帰り活かしていきたいと思います。

・自立活動の授業はとても大切にされていくものになるのだろうと思いました。

## 6 今後の方向性

### (1) 個別の指導計画との関連性

アセスメントが個別の指導計画とリンクしているかを検証する必要がある。

### (2) アセスメントの工夫

利便性、汎用性を考慮したシート、さらには本校独自のリストを検討していく。

### (3) 指導体制(グルーピング)

「自立活動」は生徒一人一人の実態に合わせて指導していくことが根本にあるため、集団と個別の関係を整理しなければならない。

### (4) 「高等学校における通級による指導」との連携

巡回相談等で連携を取りながらそれぞれの実践を検証していく。